

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170504054		
法人名	社会福祉法人 ノテ福祉会		
事業所名	グループホーム「ごきげん」清田 1階ユニットなでこ		
所在地	札幌市清田区清田1条4丁目3番16号		
自己評価作成日	平成28年3月5日	評価結果市町村受理日	平成28年4月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0170504054-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成28年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所のモットーとして継続してきた過介助にならないよう自立支援を心掛け日々ケアの質向上に努めています。時間がかかってもいい、それに一緒にお付き合いし、ご入居者が自分でもできたと感じてもらえることが活性化にも繋がると思っています。年間で組まれている法人内研修でもそれを学んでいます。他、地域密着を意識し近隣の小学校との交流、商店や公園、区の催しなどにも積極的に参加させていただいています。家族様方ともご入居者の生活の為、密に連絡をとらせていただきご意見をもらっています。当事業所は、裏庭に花壇や畑があり、ご入居者も一緒に畑作業をしています。毎年恒例のバーベキューを裏庭で楽しんでもらい、秋には収穫祭を行います。小・中学校からは紙芝居を見せてもらったり、職場実習で認知症の方々の勉強会を開催、運営推進会議等では警察の方や消防の方の講話の時間など、家族様にも参加いただき企画してきました。地域包括ケアを意識し、より多く家族様や地域の方々とのおふれあい、社会資源とのつながりをもっていけるよう今後も努めていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は、毎日、隣接する清田小学校の児童の元気な姿を眺め、手を振ってくれるとこれに応え、学校帰りには敷地内を近道として通る児童とベランダで語り合う。食事は、毎日3食とも好みの反映されたA、Bのコースの中から選び、時々外食やお茶を飲み喫茶店に行く。雪が解け、春になるとすぐ前の厚別川の河川敷に植えられた桜の花を眺め、夏には道沿いのラベンダーの香りを楽しみ、四季の移ろいを感じながら散歩を楽しむ。菜園と花壇には、トマト、カボチャ、キュウリなど10種類ほどの野菜が植えられ、その生育と色とりどりの花々を眺めるのんびりと一日を過ごす。外出も、雪まつり、ショッピングモールでの買い物、紅葉狩りなど季節に応じ計画されている。理念に謳う「誰もが、ごくふつうに、くらせる、しあわせ」がそこにある。廊下には手すりがない。転倒のリスクは職員が行き届いた支援によりカバーされている。医師と看護師の訪問医療を受け、24時間連携体制のもと安心して生活することができる。もし、重度化しても、看取り経験のある職員に支えられ、最期を自分の住処で迎えられる。法人の目指す「地域包括ケア」の一翼を担う地域密着型事業所としてこれからも無くてはならない事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員2/3くらいが 3. 職員1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の事業所であることを意識し、日々実践に取り組んでいる。	法人理念のほか事業所理念を制定しており、地域密着型事業所としての使命を職員皆で話し合い、実践に繋がるよう日々努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣小学校との交流、地域の行事にも積極的に参加している。商店や喫茶店でも日常的に挨拶が出来るようになった。	町内清掃、お祭り、バーベキュー会に参加している。小・中学生との日常的な交流、総合学習、施設訪問の受け入れのほか、ボランティアや実習生の受け入れなど、地域密着型の事業所として地域に溶け込んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校への認知症の勉強会、中学校からの職場体験、地域での介護相談会を継続している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターの職員様からの感想や助言の他、ご家族からの要望や意見も必ず伺い、それを職員会議等で伝達しサービスに繋げる様心掛けている。	多数の利用者・家族出席のもと定期的に開催している。家族からの意見や要望、警察署・消防署による講話や助言などを受け、有効に活用し、サービスの向上に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の入居状況報告や、特に加算算定・事故報告の際なども電話及び直接伺ってご指導いただくなど連携を図っている。	市の集団指導会議に出席し、各種情報を運営に反映するとともに、報告・相談時には直接足を運び、日頃から担当者との信頼と協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロのケアを実践できるよう日々取り組んでいる。研修も参加、事業所内でもされていないかどうか都度確認している。	身体拘束防止マニュアルの制定、外部研修や勉強会に出席し、身体拘束をしないケアの実践に努めている。言葉による抑制についても、職員同士で注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外の研修に参加する他、事業所内の会議の場でも勉強会をとりおこない何が虐待なのかをしっかりと見極められるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加したり、運営推進会議にて地域包括支援センターの方からの講話なども勉強として学べる機会をもっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学にお越しいただいた時から、介護保険について地域密着型について、十分な説明を行えるよう日々勉強している。契約・解約時もゆっくりと理解してもらえる様説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご家族からの要望や意見を必ず伺い、法人としても年に数回、満足度アンケート調査を行いその結果を職員に伝達し運営や日頃の業務に役立てている。	常日頃、アットホームな関係を築いており、来訪時には近況を報告し、意向の把握に努めている。毎月のお便り、年数回の満足度調査、運営推進会議での活発な意見交換など、出された意見をサービス向上に役立てている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎月の会議や人事考課の際の個別面談他、日頃より職員から意見やアドバイスをもらっている。	管理者は、毎月の職員会議で意見を聞くよう努めており、日頃から職員とのコミュニケーションを大切にしている。行事、室内活動、体操など運営面でも職員の意見がよく反映されている。人事考課時に年2回の面談が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課にて、職員個々の評価を行う為に、日頃から全職員と些細な事も話をする機会を設けたり、勤務状況を把握するよう努めている。他、休日や勤務の希望を毎月のシフト作成でとりいれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数や力量などを把握し、法人内外の研修を受講させたり、エルダー制度を活用し各フロアリーダーからの伝達を受け管理者が確認をとるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム管理者会にて企画した研修会、他ケア連絡会での研修会にも積極的に参加するように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回アセスメント時や初期プラン作成へ反映させるようご家族やご本人へのヒヤリングを重点的に行う。少しでも話しやすく関わりやすく感じてもらえる様心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	心配事や不安・要望を事前に伺っておき、気軽に相談していただけるよう、今後の関係づくりにも反映するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記にて予め伺っておいた情報をもとに、先ずなが必要なのかと、初期の段階で予測できる今後の様子をアセスメントするよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を意識し、本人の出来ることを見極めお手伝いしてもらったり、生活リハビリの一環として活動してもらったり、散歩や外出も誘ったり誘われたりといった関係づくりを目指している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子の報告も含め出来るだけご家族とは数多く関わりをもてるよう努め、行事や会議だけでなく、積極的に面会に来ていただきこちらからも相談させてもらえる関係づくりを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人様の面会やお電話、行事への参加の他、馴染みのある理美容院や喫茶店に出かけたり、お住まいだったご自宅への外出も支援させていただいている。	家族・友人の来訪時にはファミリールーム、居間、居室でゆっくりと寛いで話ができるよう支援している。外で食事をしたり、遠方からの来訪者は、居室で泊まったりすることも見られる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション他、生活リハビリも入居者同士で一緒に行っていくうちに、ともに支え合って過ごされるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の方の定期的な面会を行いながら、ご家族も「近くまで来たから」と寄っていただいたりする関係が築かれています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向の把握が困難な入居者は多いが、ご家族から得た本人の過去の情報等をもとにケアプラン等に反映させている。	日常の会話の中から思いを汲み取り、会話の困難な利用者からは、表情や仕草、家族からの情報をもとに本人本位となるよう支援している。会話の中での意向は日々の「生活介護記録」に書き留めており、アセスメント情報は介護計画の更新時に見直している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期に入居前アセスメントで情報を得てはいるが、入居後も都度ご家族等に伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃のケアを中心に定期的にモニタリングを実施しカンファレンスなどで職員全員で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ユニット毎の会議と事業所全体の会議を毎月開催しているが、都度担当者の声掛けにてカンファレンスを行なえる様にしている。	毎月のユニット会議で利用者全員についての状況把握を行っている。計画作成に当たっては、本人・家族の意向、医師や看護師の意見を踏まえ、職員の把握した利用者の課題について話し合い、現状に即した介護計画を作成している。介護計画は3か月又は6か月毎に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録の他、介護記録欄に気づきの欄を設け、職員各々が都度感じたことも記載、会議や計画作成時に反映するよう活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に変化があってもおかしくない高齢者をケアするという意識の元、見直しなどの案があればすぐにカンファレンスを行い新しい方法も試みようとしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日頃の買い物や散歩も、地域の環境やお店、公園に出かける機会を持っている。隣接する小学校との交流も何年も継続されている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昔からのかかりつけ医がいる方は、そちらへの受診を継続していただき職員が受診同行している。かかりつけ医に現在の状況を報告し適切な医療を受けてもらえる様支援している。	協力医療機関の隔週の訪問診療、週2回の訪問看護のほか、看護職員の配置があり、医療との24時間連携体制がとられている。かかりつけ医には、職員の受診支援があり、家族との情報共有が図られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	カンファレンスを訪問看護の方に同席してもらう事もあり、とても協力を得ている。入居者に何か変化があってもすぐに連携が取れる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃からかかりつけ医の他、協力医療機関などには月に1～2回挨拶に回っており、関係が継続できるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	訪問診療・訪問看護・家族・職員にて入居者に接し看取りケアも実施してきた。医師も含めたカンファレンスや、家族も含めた看取りに関する勉強会も行い全員で支援を行う体制を作っている。	契約時に、重度化や終末期に向けた指針により説明のうえ同意を得ている。重度化した時は、家族、医師、看護師を交え話し合い、介護計画に看取りケアを盛り込み、看取りを実施している。職員は、法人の研修への参加、勉強会により看取り体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内外にての研修会にて救命救急やAEDの研修会に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同一敷地内の小規模施設との連携を密にし、防災訓練時などは互いに協力を依頼しとりおこなっている。	消防署・消防団の指導を受け、地域の方の参加を得て、年2回の防火訓練を実施している。昨年のお盆の時は、冠水に備え1階の利用者を2階に移動させている。非常用備蓄も確保している。	これまで、火災に対する避難、通報、消火訓練を定期的に行ってきたが、自然災害に対する備えの再点検、地震を含めた自然災害に対する訓練の実施を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人名がわかるような掲示物や職員間の申し送りなども個人情報意識して行っている。	プライバシー保護などの研修に参加するとともに、人格や誇りを損なわない声掛け・対応に職員同士気を配っている。書類には個人名の記載を避け、台帳類も施錠できるロッカーで適正に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何を行うにも先ず本人に確認を行う様な体制づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者各々の生活リズムや習慣を尊重している。毎日同じ習慣の方も、日々過ごし方が違う方も、それぞれの生活内容を重視する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服や女性であればお化粧も行ってもらい、理美容時もその人らしさを大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けなどから始め、個々の好みや興味を引き出せ、食べながらも楽しめる様提供、行事食の時は買物にも行ってもらう。時におなががまだすかないという方のために時間も自由にしたり、家族と一緒にの機会もある。	好みを反映した献立てで提供しており、毎日、3食とも、A、Bのコースから選択できるようにしている。体調に合わせたキザミ食などの提供、好みを反映した行事食、外食や喫茶店の利用、皆の前で作る焼きそばやバーベキューなど、食事が楽しみとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理(排泄・皮膚状態・活性化)の源と考え支援、ただ厳しく管理するのではなく、好みや量、時に形状等入居者個々に合わせて支援する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ブラッシング・スポンジ・口腔シートと個々の状態に合わせた方法と、出来る所は行ってもらう自立支援を考慮し毎食後の口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方に必要な時間帯のみ使用するよう心掛けている。排泄行為自体もトイレへ向かう時から下衣の上げ下げ、後始末から戻る時まで必要な所を手伝い、過介助にならないよう心掛けている。	トイレでの排泄、布パンツ使用を目標に、排泄パターンを把握して声掛け、誘導を行っている。適切な見守りにより服薬パターンの変更、オムツやリハビリパンツの使用者が布パンツに改善した事例も見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らず、軽い運動、食事の摂り方や水分量、排泄時の姿勢等、研修で職員全体が学んできたことを活用し取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限りの配慮をし提供する。時間帯は決まってしまうが、時には夜間に希望があった時など柔軟に対応できるよう努めている。	毎日を入浴日としており、週2回の入浴であるが、希望を取入れて柔軟に対応している。浴室内の床暖の設置。湯の利用者ごとの張り替え、安全を重視した二人介助、入浴剤、会話など、入浴を楽しめるよう工夫し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の巡回の時間や日中の休息の時間も、ケアプランに反映させ個々に合わせゆっくり休んでもらえる様配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表にて入居者各々の薬の内容を把握、症状等に変化があった場合には訪問看護や主治医に報告する。誤薬事故の無い様服薬の際には何重にも確認作業を行うよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で出来る範囲でのお手伝いや軽いお仕事(役割)をもってもらい習慣としてもらっている。プランに盛り込み記録を行う。得意な事や馴染めることを取り込んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の商店や喫茶店、公園や小学校に散歩など支援、時にご家族と計画し外出に同伴して頂いたり地域の催しにも参加している。	天気の良い日の散歩、雪まつり・花見・紅葉狩りといった季節に合わせた行事、ドライブ、買い物ツアー、地域の祭りなど豊富な外出行事が設定されている。菜園・花壇には、数多くの野菜・果物、花を植えており、毎日の生育を楽しみ、外気浴の機会ともなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日頃は事業所でお預かりしているが、外出や行事に出かける際は各々に預けて使ってもらう。会計の際には職員が付き添う事としている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話があった際にはもちろん、時折ご家族に電話をして面会の予定や約束をとってもらったりする。手紙の支援は機会を設けられていないが、年賀状を書く方にはお手伝いした。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけや行事を行う会場としている。清潔に心掛け、一緒に暮らしているという雰囲気を持てるよう配慮、食堂の座席位置も業務の都合で決めるのではなく楽しく食事が出来るよう考えている。掃除や換気も入居者にも行ってもらっている。	居間・食堂は広くゆったりとしており、続くベランダは、お茶のみ、近道で通る小学生との交流の場ともなっている。季節ごとのひな祭りや節句の飾り付け、手作りの壁面飾りなど、温もりと家庭的な雰囲気が漂っている。ホームでは、気軽に訪問できるようにファミリールームを設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方々同士がコミュニケーションをとれたり、職員も交えレクや運動を行なえたり、のんびりテレビを見たり音楽を聴けたりと、リラックスできる空間づくりに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライバシーに配慮し、その人らしい過ごし方が出来る様、馴染みの家具や必要なものを揃えてもらい過ごして頂いている。	居室内には、クロゼット、洗面台が設置されている。各自、馴染みの家具や使い慣れたものを持ち込み、思い思いの飾り付けで居心地の良い居室を作り上げている。入口には表札がなく、好みの写真、行事の写真を貼り、目印と思い出の振り返りとしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの案内表示、居室内はつかまったり歩くのにつかまれる家具の配置、車いすでも移動に差し支えない環境整備をしている。		